BiPHかわらばん ３号

BiPH Bridges in Public Health

【ごあいさつ】

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします。

ニュースレターも3号まで発行すると、やっと定期発行になってきたような気がします。ニュースレターの新しい試みとして、BiPHの活動に関連した事項の豆知識コーナーを開始しました。（3頁コラム）

この間、定期勉強会の開催に加えて、国際リハビリテーション研究会の依頼を受けて、2018年9月にリハフェスを共催しました（2頁特集）。リハフェス共催団体である国際リハビリテーション研究会代表の河野眞さんには、3月のBiPH勉強会にお越しいただき、ミャンマーでご活動についてお話ししていただく予定です。（定例勉強会ダイジェストは3頁、今後の予定は4頁）

そして、海外プロジェクトがいよいよ具体的化します。テーマは「日常保健データをもとにしたプライマリヘルスケアの質向上」です。なぜデータなのでしょう？下記コラムをご覧下さい。

引き続きのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

【プロジェクト事前調査へ！】

保健に関わる日々の活動は記録されます。例えば、日本でも子どもが健診を受けたらその結果は記録されます。お母さんにとっては子どもの状態を知る重要な手がかりになると同時に、保健センターにとっても、担当地区の状況を把握して保健活動を推進していくために欠かせない情報となっています。例えば、10年前に比べてどう変化したのかという時間的経緯や、どの地区に健康問題がありそうなのかという、活動計画のために必要な分析も、きちんとした保健データあってこそのものです。

開発途上国で保健制度を整備していくにあたり、保健データが重要であることは以前から指摘されています。国際社会の支援もあり、多くの開発途上国に「保健情報システム」が導入され、ヘルスポストや保健センターの活動で得られた保健データが、県保健局、さらには保健省へと報告されて行くしくみができつつあります。それをもとに、国の保健政策が打ち立てられることもあります。でも、そのデータがお母さんたちの健康理解につながったり、ヘルスポストや保健センターの活動に有効に活用されるというところまでにはまだなっていないようです。

そこで、BiPHでは、東ティモールのプライマリヘルスケアレベルで日常保健データの質を向上し、有効に活用するためのプロジェクトを提案して準備を進めてきました。「保健データ」は単なる数字ではなく、保健活動、ひいては健康といのちを大切にすることにつながると信じるからです。また、これは今世界が目指している目標「誰も取り残さない」ための一歩でもあると思います。

この度、プロジェクト事前調査のための支援をJICAから受けることができ、事務局の2名が3月末に東ティモールを訪問する予定です。事前調査の結果は5月のBiPH勉強会でみなさまにご報告し、プロジェクトを立ち上げていく予定です。

【国際リハフェス2018　開催報告】

2018年9月7～8日：テーマ「リハ分野の国際協力、半端ないって！」

（共催：国際リハビリテーション研究会　協力：アジア保健研修所）

【9/7：グローカルにWell-beingを語ろまい＠名市大】

テーマは「理念と情熱と愛想の国際協力からの離陸」。青年海外協力隊やNGOでリハビリテーション分野の国際協力に従事した3名の方々から、東ティモール・バングラデシュ・ミャンマーでの活動内容や、現地の障害者事情をシェアしていただきました。

この分野の国際協力は歴史が浅く、手法も確立していないため、現場での活動が手探り状態であることもしばしば。スピーカーやフロアからは、障害者の置かれた状況やニーズを把握することの重要性と難しさ、地域特性を理解することの大切さ等があがりました。

制度の違いも含め、外部者が支援活動をする際の課題はどの分野も共通です。リハビリテーション分野においても、活動の根拠となる量的・質的調査の重要性や、学際的視点での研究が不可欠だと感じました。障害当事者、医療・福祉分野の専門職、NGO関係者や研究者など、さまざまな立場の参加者が集い、終了後の懇親会も含めて、熱い議論が交わされた夜となりました。

【9/8：国際NGOに行こまいか＠AHI】

日進市のアジア保健研修所（AHI）を訪問し、アジア諸国からの研修生との交流会にジョイントしました。

AHIは日本のNGOの草分け的存在。まずはAHIの成り立ちと活動を、事務局長の林さんからご紹介いただきました。草の根レベルで活動する人材を、参加者同士の学びあいという方法で支援するAHIのスタイルは、誰もが対等な人間であることを具現化するものだと感じました。また、住民のエンパワメントに応用できる、研修生にとっても実践的な方法であることに気がつきました。

その後、アジアからの研修生との交流会「チカチカ（フィリピン語で“おしゃべり”の意）」に突入。小グループに分かれて、国のことや活動内容から、おしゃれや恋バナまで、ざっくばらんに聞いちゃいました！参加者の中には青年海外協力隊のOVもいて、「久しぶりに現地語が話せてうれしかった！」の声が続出。チカチカの参加者は地元の人が多く、AHIが地域に根ざしたNGOであることを改めて実感した1日でした。

【勉強会報告】 ＊毎回の勉強会は、ウェブサイトとFBで詳しくご報告しています。

7月は、林かぐみさん（(公財)アジア保健研修所（AHI）・事務局長）から「日本における国際協力NGO－地域におけるNGOの関わり」と題してお聞きました。国際研修をメイン事業にしているAHIは、国内活動、特に地元では何をしているの？という疑問に答えていただきました。

国際研修を利用して行うさまざまなイベントをを通して、地元の人びととアジアの人たちとが交流し、学び合える場を提供しているとのこと。国際研修と国内活動はつながっていて、「現地の人々⇔研修生が所属するNGO⇔AHI⇔国内の支援者」を基軸に活動展開しているそうです。AHIの今後は「NGOが担う」から「多様なアクター、分野との連携」へ、「あるもの」から「機能するもの」にしていく役割へ、「AHI自身が発信する」から「ネットワークづくり」へ進化させていくのことです。

9月は、水元芳さん（中村学園大学・栄養科学部教授）のミクロネシアの肥満対策第3弾「科研費研究から草の根事業へ、そして再び研究への展開ー研究と現場をつなぐミクロネシアの肥満対策」でした。水元さんは、ミクロネシアの肥満に関する調査・研究と肥満対策プログラムの開発実施・の両者に尽力し、進捗状況をBiPH勉強会で定期的にシェアしていただいています。

今回は、現在進行中の「減量コンテスト」や、その他活動にこれまでの研究成果をどのように活用しているかなどを、お話いただきました。現行のプロジェクトはJICAの草の根技術支援事業によるもので、この事業形態に関する質問も出ました。研究と実践を行き来しながら、現地の人びととともに人びとの健康のための活動を継続する、、、水元さんのスタイルはまさにBiPHのめざすところです。

11月は、近藤麻理さん（関西医科大学・看護学部教授）による「難民緊急救援活動を行うスタッフの日常を振り返る―2000年のコソボ」でした。1999年~2000年の約10ヶ月間、日本のNGOの現地代表としてコソボ難民への救援活動を行った近藤さんから、当時を振り返っていただきました。

写真提供：近藤麻理さん

コソボと周辺国の位置関係、そして、何がどうして起こったのかの解説から始まり、国連機関や、緊急援助に入っていた各国軍との調整、日本からの短期支援者の受け入れや視察者への情報提供など多岐にわたる活動、また、網膜芽細胞腫（眼底の腫瘍）の3歳の男の子を見つけ、日本への治療移送も行なったことなどをお聞きしました。政治的にも宗教的にも微妙な状況の中で、政治的センス、バランス感覚と調整能力が必要とされる活動であったことがうかがわれました。

【豆知識】 SDGsとは？

2015年9月に開催された「国連持続可能な開発サミット」で、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」という文書が採択されました。「誰一人取り残さない」という理念をかかげた意欲的なものです。その中に書かれた具体的行動指針は「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals=SDGs）」と呼ばれ、17の目標と169の達成基準からなります。

2015年までの15年間、開発への取り組みの指針となってきた「ミレニアム開発目標」の成果を土台としつつ、「環境」と「開発」の両立をめざす「持続可能な開発」の流れもくんでいます。MDGsに比べて、より市民社会の参画が求められていると考えられています。

BiPHの新プロジェクトでは、ターゲット3.8である「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の達成」とターゲット17.18である「質が高く、タイムリーかつ信頼性のあるデータの入手可能性向上」を草の根レベルからささえることをめざしています。

【今後の勉強会】

詳細は随時HPやFBページでご確認ください。

回	日時	テーマ	担当	会場
58	1月25日（金） 18:30～20:00	国際NGOでの障害者支援の実際 ～バングラデシュの経験から～	山内章子 （公社）日本キリスト教海外医療協力会 理学療法士	昭和生涯学習センター 第1和室
59	3月15日（金） 18:30～20:00	ミャンマー・カレン州の農村に暮らす障害者の実態調査から	河野眞 国際医療福祉大学 教授 作業療法士	昭和生涯学習センター 第1集会室
60	5月31日（金） 18:30～20:00	東ティモールでの地域保健プロジェクト事前調査報告	BiPH東ティモールプロジェクトチーム	昭和生涯学習センター （予定）
61	7月26日（金） 18:30～20:00	日本で生活する外国人の健康と保健医療へのアクセス	樋口倫代 （一社）BiPH 代表	昭和生涯学習センター （予定）
62	9月 （日時未定）	民衆のための保健会議って何？	宇井志緒利 立教大学 教授	昭和生涯学習センター （予定）

昭和生涯学習センター　〒466-0023　名古屋市昭和区石仏町1-48
（アクセス：地下鉄鶴舞線及び桜通線「御器所」駅2番出口南約300m　または3番出口南東約300m）
http://www.city.nagoya.jp/kyoiku/page/0000051930.html

【パンフレットとウェブサイトが新しくなりました】

BiPHのめざすものをより分かりやすくまとめたA4三つ折りの新しい法人パンフレットを作成しました。また、ウェブサイトを刷新しました。随時ご報告してきた勉強会報告などがより見やすくなっていると思います。これからも、みなさんとBiPHをつなぎ、また、情報提供のできるウェブサイトを目指して行きたいと思います。

【「健康をささえる社会のしくみを考えよう」報告集をお分けします】

昨年作成した「健康をささえる社会のしくみを考えよう」の報告集の在庫がまだ少しあります。タイ保健省国際保健政策計画（研究所）のViroj Tangcharoensathien氏などをまとめた、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの貴重な史料集です。ご希望の方はBiPH事務局まで。

【会員募集】

当会は活動にご賛同いただける会員の皆様方からの会費で成り立っています。ぜひ会員としてご支援ください。会員の種別、払込先は以下の通りです。詳細はホームページ等をご覧ください。

個人正会員3,000円/年、個人賛助会員3,000円/年、法人会員30,000円/年
振込先：ゆうちょ銀行　00870-9-126227　　シャ）ブリッジズインパブリックヘルス

【事務局から】

毎日寒いですが、いかがお過ごしですか？今年のBiPHは新たな海外事業に向けて準備の1年となります。外は寒くてもココロは熱く進みますので、引き続きご支援よろしくお願いします！

会報「BiPHかわらばん」2019年1月号（通算3号）
発行：一般社団法人Bridges in Public Health
代表理事：樋口倫代
〒467-0027　名古屋市瑞穂区田辺通1丁目22番地2
TEL：052-846-5878　　E-mail：biph-adm@umin.ac.jp
URL：http://plaza.umin.ac.jp/biph
FB page：：https://www.facebook.com/biph.adm/

BiPH
Bridges in Public Health